

大学病院内での連携
躍進する臨床検査 ～AMR 対策における検査技師と他職種との連携～

◎笠原 敬¹⁾
奈良県立医科大学 感染症センター，感染管理室¹⁾

奈良県立医科大学附属病院などの大学病院の多くは，特定機能病院である．特定機能病院の役割には，高度の医療の提供，高度の医療技術の開発・評価，高度の医療に関する研修がある．臨床検査においてもこれらを適切に実施する体制を確保することが求められており，当院でも感染症検査のみならず，様々な領域で高度な医療を支える臨床検査が行われている．微生物検査を行う部門は以前は「細菌検査室」などと呼ばれていたが，感染症の原因微生物を包括的に診断する部門として，「病原体検査部門」と改称され，ウイルス，抗酸菌検査，細菌検査などを担当している．また当院には認定臨床微生物検査技師制度協議会の認定微生物検査技師が1名在籍している．

現在 ICT (infection control team) および AST (antimicrobial stewardship team) には1名の臨床検査技師が兼任している．毎日の ICT/AST のミーティングやラウンドの準備や参加を基本として，毎日夕方に開催される血液培養カンファレンスのマネジメント，毎月開催される感染防止委員会の準備，さらには感染防止対策加算における地域連携カンファレンスや国公立大学附属病院感染対策協議会の総会・ブロック別研修会，相互チェックの準備や参加などその業務は膨大である．

臨床検査技師は本来業務が感染症診療や感染対策と密接に関係するため，「ICT の」あるいは「AST の」臨床検査技師の役割やその他の臨床検査技師の業務との線引きがあいまいなところがある．また人員不足もあいまり，当院でも実際にはルチン業務を行いながら，その合間に時間を確保して

ICT/AST 業務を行っているのが現状である．従って，ICT/AST の臨床検査技師以外の臨床検査技師でも業務を分担できるように教育・育成することが重要であるが，一方で ICT/AST の臨床検査技師とそれ以外の検査技師の「違い」が何なのかを明確に示すことも専門性をアピールする上では重要だと考える．

本発表では当院における AMR 対策における検査技師と他職種との連携について，事例を挙げながら紹介する．その上で大学病院・特定機能病院の臨床検査技師が目指すべきあり方について議論できれば幸いである．